

平成31年度令和元年度 伊万里市立山代東小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
笑顔で 元気な 東っ子	① 「学び」の楽しさや喜びを味わわせ、学力の向上を目指す。 ② 感性を高め、思いやりに満ちた豊かな人間性を育成する。 ③ 基本的な生活習慣を身に付けた、心身共に健康で、たくましい児童を育成する。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 「学び」の楽しさや喜びを味わわせ、学力の向上を目指す。 ☆教務主任 文化部(研究主任) 特別支援担当職員

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・授業と家庭学習とのつながり ・基礎基本の確実な定着 ・ICT利活用教育の推進	・学級の実態に応じた指導に力を入れ、指導法の工夫改善に努める。 ・学力検査等において、県平均を上回る。 ・学習規律を身につけさせ、スキルタイムの継続により、基礎学力の定着を目指す。 ・授業の中で積極的にICT機器を活用する。	・言語活動等の表現活動を学習に位置づける。 ・学習過程に「書く」活動を位置づけ、表現力の向上につなげる。 ・全学年に算数ITの時間を確保し、基礎基本の向上に努める。 ・家庭学習は「学年×10+10」分を目標にする。 ・電子黒板を積極的に活用できるように配置する。	A	・西部型授業の展開を柱にして、授業改善に取り組んだ。児童も学習活動が身につく、主体的に学ぶことが増えてきた。 ・自力解決をもとに話し合う活動を取り入れ、筋道を立てて考える機会を多く作ることができた。 ・学力検査などでも、少しずつ向上が見られた。 ・家庭学習への取り組み方、家庭への啓発が今後の課題である。	・「ちゃんと習慣チャレンジカード」で毎月実施することで、家庭学習の時間の確保、家庭学習の質の向上につなげていく。また、実施状況の集計を生かし、家庭への啓発を図っていく。 ・スキルタイムを活用し、基礎基本となる計算、作図などを反復練習させることで、学力の向上を図る。
			・児童の実態及び保護者の願いを的確に捉え、個に応じた支援を実践する。(児童に関する情報連絡会月2回実施) ・情報連携及び「行動連携」の充実強化を図る。	・保護者面談や情報連絡会、校内支援委員会を通して、保護者との連携、また職員間での連携を図り、共通理解をして全職員で協力して支援を行う。 ・ケースに応じて、専門機関や医療機関等との連携を図る。 ・個別の教育支援計画を元に、きめ細かな指導とその記録を行う。	B	・児童に関する連絡会が定期的に実施できず、共通理解を図ることができなかった。日常の会話の中で情報交換をし、できる者ができる範囲で支援に当たってきた。支援会議を行い、計画的な支援ができるようにしたい。 ・担任の働きかけで、SCにつながるなど保護者の意識の変容が見られた。 ・個別の支援計画についてはきめ細かな指導と記録を行う。	・職員連絡会の後に、15分程度の児童に関する連絡会を位置づける。 ・児童の困り感を把握し、担任と相談しながら児童への支援を行う。特に、学習支援が必要な児童への対応を工夫する。 ・SCとの相談や巡回相談などを活用し、よりよい支援の仕方を探っていく。 ・児童の特性や支援方法を共有し、共通理解を図る。

② 感性を高め、思いやりに満ちた豊かな人間性を育成する。 ☆特活部(道徳主任)生徒指導担当教員 教育相談担当職員

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・心の教育3点セットの活用 ・道徳教育、生徒指導、教育相談の充実 ・たてわり班活動の充実	・一人ひとりの児童を大切に学級づくりを目指す。 ・学級経営や学校行事の中で、「心の教育3点セット」の活用を位置づける。 ・「ふれあい道徳」への保護者の参加率を80%以上に上げる。 ・たてわり班活動を通して、思いやりの心の育成を目指す。	・「挨拶・返事・時間を守る」ことに取り組んでいく。また、規範意識や思いやりのある言動を指導し、身につけさせる。 ・童謡歌集や「伊万里っ子くさ」を活用し、児童の情操を高める。 ・「いのちの教育指導資料」を活用した授業を行う。 ・たてわり班遊びやたてわり班掃除を計画し、異学年交流を通じた思いやりの心の育成へとつなげる。	B	・「挨拶・返事・時間を守る」ことについては、月のめあてとして指導を継続してきたことで、子どもたちも意識ができてきた。 ・「いのちの教育指導資料」を活用した授業を行うとともに、道徳や他教科の学習を通して相手を尊重することの大切さを考える機会をもち、命の大切さについて考えさせることができた。 ・「伊万里っ子くさ」は教室に掲示したり、放送で紹介したりして日々の格言として活用している。 ・「ふれあい道徳」への保護者の参加率は80%を超えた。 ・たてわり班活動は計画的に実施することができ、異学年交流が深まり、お互いを思いやる行動が増えてきた。	・週1時間の道徳の授業を年間計画や児童の実態に基づいて各担任がきちんと取り組むことで、道徳的心情や実践力を高めることができた。 ・「いのち」に関わる授業は年に何回もすることはできないが、高学年では学級指導などでも活用できる。また、低・中・高学年でも生活科や総合学習の時間などに「命」について考える学習を多くしていきたい。 ・思いやりのある言動を実践していくために、具体的な言動を紹介する機会を多く持っていく。児童自身がそれを行えるような場を設けるようにする。
			・いじめのない学級づくりに努め、学級での生活に楽しさや充実を感じる児童を100%にする。 ・児童に関する情報交換会を計画的に実施する。	・児童の生活や心に関するアンテナを高くし、保護者との連携も図りながら「いじめ」の未然防止を図るとともに、早期発見・早期対応、再発防止に努める。 ・温かく思いやりのある学級集団づくりに努め、いじめなどが発生しない学級風土づくりを行う。	A	・学級通信や学校便りなどで児童の様子などの情報を発信してきた。 ・「学校のくらしアンケート」を実施し、全児童が担任と話し合う機会を設けることで信頼関係を築いていった。 ・ケースに応じて支援会議を行ったり、保護者と連絡を取り合ったりした。 ・教師、保護者、SC、SSWと連携を取り、児童に関する情報交換を行った。	・学級通信などの紙媒体だと保護者まで確実に届く保証がないので、ホームページや校内環境の整備なども使って情報を発信していく。 ・児童の状況を教員同士で共有し、それぞれの立場から関わりを持って指導、支援を行っていく。

③ 基本的な生活習慣を身に付けた、心身共に健康で、たくましい児童を育成する。 ☆教務主任 保体部 生活部

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・「歯と口の健康づくり」を通じた心身の健康意識の啓発と健康づくりの推進 ・食育の推進と充実 ・外遊びの奨励	・「歯と口の健康」に関する指導を通して、児童自身の心身の健康に関する実践力を高める。 ・1日3回の歯みがきを実施している児童100%を目指す。 ・栄養教諭・養護教諭を中心に、「食育」に力を入れる。 ・中休み、昼休みの外遊びを奨励し、外で遊ぶ児童80%以上を目指す。	・発達段階に応じた「歯と口の健康」に関する指導を計画的に行う。 ・家庭の関心を高めるため、歯科医師による保護者向けの講演を実施する。 ・給食試食会や食育たより等を通し、保護者に食育に関する啓発を行う。 ・外での集団遊びを紹介し、実践へとつなげる。	A	・「歯と口の健康」については、保健だよりや掲示物で啓発を行った。 ・ふるさと先生や企業と連携して、食と健康について発達段階に応じた取組ができた。 ・栄養教諭や養護教諭と連携し、給食時間の指導や食育について充実した指導ができた。 ・縦割りの遊びやマラソン、長縄など定期的に外で活動できている。 ・上学年は、相模や陸上運動、バスケットボール等の市内小学生大会に参加した。	・児童に対しての歯科講演会を計画する。 ・保護者に向けて、ふるさと先生や企業の方の講演を実施する。 ・ニュースポーツをみんなで行ってみることも、効果があると思う。
			・授業参観・学校行事等において保護者・地域と連携を図る。 ・「東っ子育成プラン」の推進 ・「家話の日」の推進 ・ふるさと「やましろ」を思う気持ちの醸成 ・活気ある学級集団の育成	・学校便り、学級便り、HP等による学校の教育活動に関する情報を発信する。 ・「家話の日」や「家話の日」の前日に情報委員会の放送により、各家庭で取り組むように呼びかけたり、音読カードに読んだ本や話した内容を記入させたりする。 ・生活科や総合・社会科等で地域学習を取り上げ学習する。 ・一人一人が認められる場を積極的につくる。	B	・学校便り、学級便り等による教育活動に関する情報を発信することができた。 ・HPの更新ができなかった。時間的な余裕がなかった。 ・地域を学習する機会が多く考えられ、各学年で実施されていた。 ・一人一人が活躍できる工夫が各学級で工夫され実践されていた。	・学校ホームページの更新をすべくあたっては、更新の方法を研修するなどして、担当者を1人にするのではなく、職員であれど更新できるような仕組みにする。
			・保護者や地域と連携し、通学路の安全把握と危険に対応する。 ・食物アレルギーに関する研修の実施及び保護者との連携を充実させる。 ・危険を予測したり、危機から身を守ったりする力を育成し、危機管理マニュアルに基づいた行動や対応ができる児童を100%にする。(交通・生活事故、災害等から身を守る力の育成) ・自分や他の命を大切にすることを実践力を育てる。	・通学路の安全点検を定期的に位置づけ、現状把握に努める。月1回の通学路点検並びに保護者や地域からの情報収集を行う。 ・親子登校を実施し、保護者の通学路に関する関心を高める。 ・交通教室や交通安全指導等を通し、自分の命を守る方法を具体的に教える。 ・保護者から情報を集め、アレルギーの有無や対応策を具体的に把握及び作成する。 ・「危機管理マニュアル」の内容把握の時間を定期的に設定する。 ・自他の健康や命を守る手立てについて、学年に応じ、具体的に指導する。(青少年赤十字制作DVDの活用)	A	・年度当初に親子登校を実施し、通学路の確認や通学路の安全点検ができた。 ・交通教室や全校朝会などの折に校区内の危険箇所や交通安全についての指導など、定期的な話し合いを通じて児童に注意喚起をすることができた。 ・保護者と担任、養護教諭が連携したことで給食に配慮した食物アレルギーなどの研修会を実施し、配慮が必要な児童に関して共通理解を図った。	

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入) ☆教務主任

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○保・小・中連携	・山代町内4保育園との連携 ・小中連絡協議会並びにPTA3校 連絡会を通じた連携の充実	・確かな学力の定着をめざす。 ・豊かな心の育成をめざす。	・山代町3校の共通理解を図り、小中9か年の見通しを持ち立腰教育を実践していくことで、落ち着いた学習環境を作り、学力の定着を目指す。 ・楠久、久原、鳴石、さくら保育園との連携を図り、小1児童の授業参観や情報交換を行う。	B	・保小連携では、6月に小学校参観と夏季休業中に情報交換会を行った。 ・小中連携では、地域指定事業もあり、家庭学習の内容・時間の系統を確認したり、授業展開の統一(西部型授業)を図った。	・小学校就学をスムーズにするために、保小連携では、より詳しい情報収集が必要である。今後も学校、保育園のそれぞれの立場から児童支援を行っていくよう努める。 ・「立腰教育」の継続に力を入れ、3校の職員の共通理解が必要である。
			・校務処理の効率化 ・規範意識、モラルの高揚	・提出文書の一元管理と紙媒体での保存をする。 ・明るい挨拶と笑顔、感謝の言葉が飛び交う職員室になるように働きかける。	B	・校務の整理と効率化については成果が見られた。年度途中で職員交代ができたことがあったが校務のデータ整理がきちんとできていたのでスムーズだった。 ・明るい挨拶と笑顔、感謝の言葉が飛び交う職員室になるように心がけた。また、過年度の書類の精選に全職員で取り組んだ。	・学校行事の精査、整理や年間活動を見据えた校務分掌の見直し、検討を全職員で進めていく。 ・特に若手職員に対しては、指導だけでなく、寄り添いながら一緒に取り組むよう支援をしていく必要がある。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目